

イ. 発震機構

1997年10月1日から2016年10月31日に発生したM4.0以上の地震の発震機構（初動解）を図2-5に示す。周辺で発生する地殻内の地震は、発震機構が西北西—東南東方向あるいは東西方向に圧力軸を持つ型が多い。2016年10月に発生したM4.0以上の地震の発震機構（初動解）を図2-6に示す。今回の地震活動で発生したM4.0以上の地震の発震機構（初動解）は、西北西—東南東方向あるいは東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であり、これまでの活動と調和的であった。

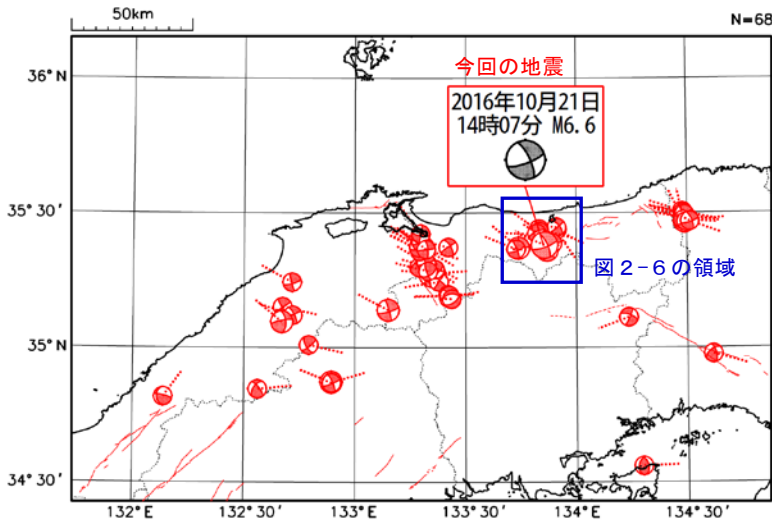


図2-5 発震機構（初動解）分布図
（1997年10月1日～2016年10月31日、深さ0～20km、 $M \geq 4.0$ ）
シンボルから伸びる点線は圧力軸の方位を示す。
図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

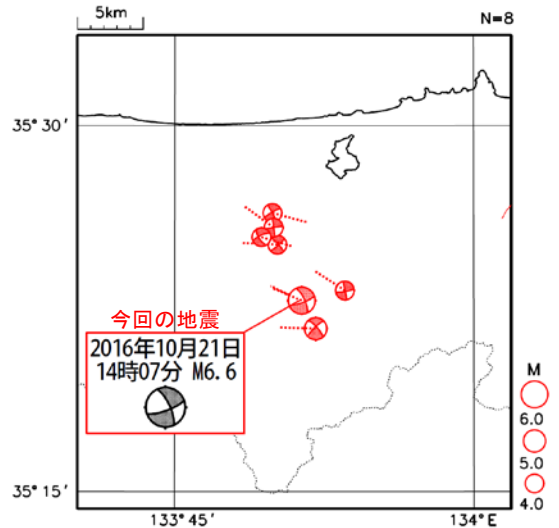


図2-6 発震機構（初動解）分布図
（2016年10月1日～2016年10月31日、深さ0～20km、 $M \geq 4.0$ ）
シンボルから伸びる点線は圧力軸の方位を示す。

ウ. 過去の地震活動

1923年1月1日～2016年10月31日までの震央分布図を図2-7に、中国地域北部の区域（図2-7中の領域b）のM-T図を図2-8に示す。

2000年10月6日に発生した「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」（M7.3）では、負傷者182人、全壊家屋434棟などの被害が生じている（被害は「日本被害地震総覧」による）。1943年9月10日に発生した鳥取地震（M7.2）では死者1083人、全壊家屋7485棟など大きな被害が生じている（被害は「日本被害地震総覧」による）。鳥取地震の前後では、M6を超える地震が複数発生するなど活動域は今回の地震の付近まで広がっている。また、1983年10月31日には今回の地震の震源付近でM6.2の地震が発生している

なお、地震調査研究推進本部地震調査委員会では、今回の地震活動域を含む中国地域北部の区域では、M6.8以上の地震が30年以内に発生する確率を40%と評価していた。

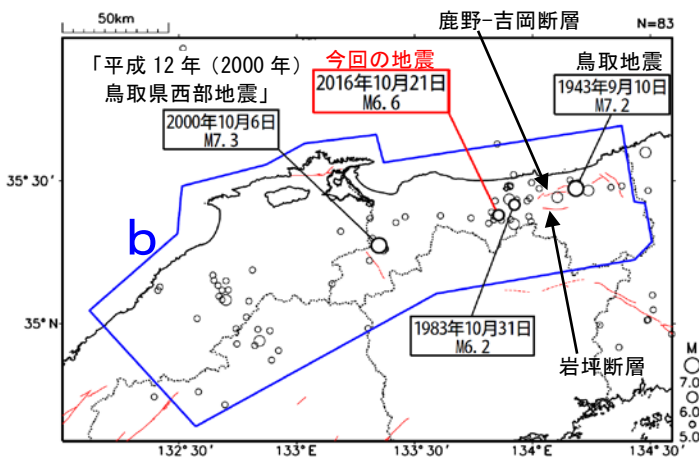


図2-7 震央分布図
（1923年1月1日～2016年10月31日、深さ0～100km、 $M \geq 5.0$ ）

図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

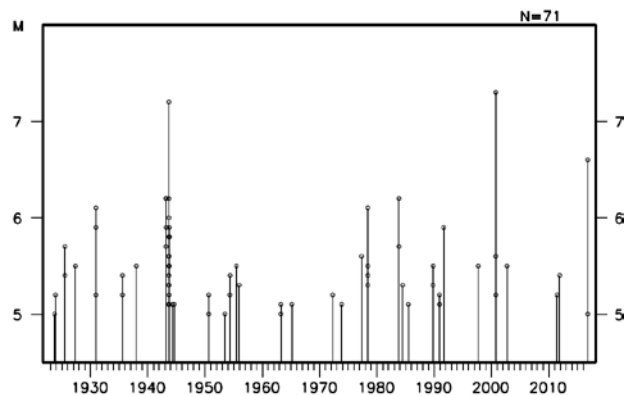


図2-8 領域b内のM-T図